

令和6年4月2日部長会議 会議録（要旨）

- ◇日 時 令和6年4月2日（火） 午前8時35分から午前9時45分まで
- ◇場 所 市役所第一庁舎5階 庁議室
- ◇出席者 市長、西澤副市長、松山副市長、教育長、上下水道事業管理者、総務部長、企画政策部長、財政部長、地域・市民生活部長、保健福祉部長、保健所長、こども未来部長、環境部長、経済産業振興部長、観光文化部長、スポーツ部長、農林部長、建設部長、都市整備部長、会計局長、教育次長（行政及び教育）、上下水道局長、消防局長、議会事務局長、危機管理防災監及び関係課職員

◇会議内容

<市長あいさつ>

- ・今年度最初の部長会議である。新たに下平監査委員が就任され、丸山教育長、上平上下水道事業管理者も2期目を迎えられた。また、経済産業振興部、観光文化部、スポーツ部が新設されるなど、新しい組織体制となった。新任の部局長が出席する新たなメンバーでの会議となる。ここにいる皆さんと忌憚のない意見交換、活発な議論をお願いしたい。
- ・本日のその他の案件にもあるが、これまで部長会議、政策会議などの庁議の在り方について、私の考えを伝えながら検討を重ねてきた。今後の方針について、後ほど中村企画政策部長から説明してもらう。より効率的に、より効果的な会議や打合せを行い、そこから生み出される時間を、仕事に充てていきたい。
- ・今週6日土曜日には教育支援センター「SaSaLAND」がオープンとなる。また、夏に向けては、「ながのこども館」や「(仮称) 豊野防災交流センター」などもオープンに向けて準備が進められている。それぞれの施設が目指すコンセプトのもと、利用される方々に愛される施設となるよう対応をお願いしたい。
- ・本日の報告事項で、卯田財政部長から「令和6年度予算執行方針」について説明がある。私の任期後半の基本方針の3つの柱「定着」「変革」「挑戦」のもと、予算を重点配分した「未来への投資」につながる施策・事業を中心に、市役所自らが率先してチャレンジし、市民の皆様暮らしの変化を実感していただけるよう取り組んでいきたいので、部局長が先頭に立ち、スピード感をもって進めてほしい。
- ・昨日の新規採用職員研修で私から講話を行った。その中で、「なぜ市長になったのか」「何を考え、どんな思いで仕事をしているか」を伝えた。また、「今日から市職員となるが、一人の市民であることを決して忘れずに、真っ白な気持ちで、できないことを伝えるという作業ではなく、「工夫すること、考えることを大切にし、気づいたことをどんどん上司に意見・相談してほしい」とも伝えた。子ども、若者、女性など様々な市民の皆様の意見を聴く姿勢で臨み、上司の皆さんにも積極的に議論できる環境づくりをお願いしたい。子育てや介護など家庭の事情を含め、職員のワークライフバランスにも配慮し、より快適な職場環境を目指していただきたい。

1 報告事項

(1) 長野市新型コロナウイルス感染症対応記録について（総務部）

標記事項について、危機管理防災監から説明した。

○質疑なし

(2) 「長野市保健所新型コロナウイルス感染症対応記録」について（保健所）

標記事項について、保健所長から説明した。

○質疑

[総務部長] 報告(1)、(2)ともに長野市新型コロナウイルス感染症対応記録という同じ名称で、それぞれで対応記録を作成しているが、ホームページで公開していくならば、ひとつにまとめた方が分かりやすいのではな

いか。

[保健所長] 保健所の対応記録は医療提供体制など医療面の対応記録である。市民の皆様に分かりやすく、掲載するというのも大事だと思うので、検討したい。

[危機管理防災監] 市民の皆様に対する分かりやすさの観点から考えると、どのようにできるかについては、保健所と相談したい。

[企画政策部長] 部局にとらわれずに報告書をまとめた方がこれからの感染症拡大の時に参考になると思う。工夫できる部分があれば、引き続き検討をお願いしたい。

[総務部長] この2つの(部局で)対応記録は、作り方に差があると思うので、合わせて調整していただきたい。

[企画政策部長] これからの記録として、内容が充実すると思うので、検討をお願いしたい。

(3)「長野市保健所健康危機対処計画(感染症編)」について(保健所)

標記事項について、保健所長から説明した。

○質疑

[松山副市長] これまでのコロナ禍の対応を踏まえて、人員数を出したということであるが、懸念されることはこの数字がベーシックなものになってしまうのではないかと。この数字がどういう根拠を持って、どのように位置付けられていて、どのような想定なのか、そこを明示しておく必要があると思う。検証若しくは条件付けを明確にすべきだと思うので、人員数の出し方も含めて検討いただきたい。

[保健所長] コロナの対応がここまで続くとは誰も予想していなかったが、その中で、フェーズという感覚が生まれてきたことが新しい認識だと思っている。つまり、流行初期には最小限の職員数で対応が可能だが、爆発的に拡大した時に市民の健康を守るためには、保健所職員だけでは足りないもので、応援をお願いするというように、フェーズごとに目安を示している。人員数を示すことで、より円滑に他部局からの協力が得られることを経験から学んだ。今後は、仕事の内容を精査し、必要最小限の人数で効率的なやり方をしていくべきだと思うので、結果を報告させてもらう。

[松山副市長] 数字は状況によって、変わっていくものだと思う。例えば、「通常人員の何倍程度が必要」など、少し緩和した表現にすることも考えられるのではないかと。まずは、保健所として、必要な人員数を表現しながら、対外的にどういう見え方をするのかを検討してもらいたい。

[保健所長] 検討させていただく。

[西澤副市長] この計画は、公表していくのか。

[保健所長] 公表していく。

[西澤副市長] そうすると、松山副市長の懸念が考えられる。本日の報告(1)長野市新型コロナウイルス感染症対応記録や本年1月部長会議案件の危機管理指針の改正については再検討することになったが、様々な計画が乱立して、市民や議会には分かりづらい。危機管理防災課が全体を把握した上で、市としてこういうふうな計画を進めるんだという、オーソライズの意識が少し欠けているのではないかとと思うが、危機管理防災監の考えは。

[危機管理防災監] 情報を共有するという観点からも、関わっていききたい。

[企画政策部長] 対外的に分かりやすい資料をお願いしたい。

(4)令和6年度 予算執行方針について(財政部)

標記事項について、財政部長から説明した。(資料1参照)

○質疑

[保健福祉部長] ネーミングライツなどがあるが、予定があるのか。

[財政部長] 現時点で何かを念頭にしているわけではないが、今後も引き続き考えて欲しいということで入れさせていただいた。各部局においても新しい施設を作る時には、財源の候補になるのではないかと考えている。

[西澤副市長] 以前、オリンピック施設のネーミングライツを検討したが、五輪マークを外さなければならないなどの理由から断念した。南長野運動公園に新しくできるサッカー場は可能性があるのではないかと。

[松山副市長] 各地でネーミングライツをやっているが、あまりうまくいっていない。以前ほどのネーミングライツ熱は全国的に冷めてきている現状がある。結局は、ライツ（権利）が安くなっているのでは、簡単ではない。そういう認識を持ちながら、やると決めたら様々な知恵を出しながら、ネーミングライツを導入しないと、うまくいかないかと認識していただきたい。

[企画政策部長] 財源の確保は各部署で努力していただきたい。

2 その他

(1) 令和6年能登半島地震の被災地支援及び被災者支援について（総務部）

標記事項について、危機管理防災監から説明した。（資料2参照）

○質疑なし

(2) 「しなのきプランⅡ」について（教育委員会）

標記事項について、唐木教育次長から説明した。（資料3参照）

○質疑なし

(3) 庁議等について（企画政策部）

標記事項について、企画政策部長から説明した。（資料4参照）

○質疑

[市長] 政策会議では、意見を出し合うことが必要だと思うので、議論が飛び交う場にしたいと思う。新たなスタートになるので、よろしくお願ひしたい。

[総務部長] 部長会議の効率化を図る中で、件数や時間がどの程度削減されるのか。

[秘書課] 1/3程度まで時間は減らせると思う。

[総務部長] 部長会議・政策会議ともに性格という項目がある。一般的には性格ではなく目的ではないのか。性格という言葉を使った理由を教えてください。

[秘書課] この会議がどのような意味合いを持っているのかという趣旨で性格という言葉を使っている。

[財政部長] 一括議論・一括承認案件の場合でも、補足的な説明をする機会をいただくことはできるのか。

[企画政策部長] 柔軟に対応していきたいと考えている。

以上